

**INTERPHONE 研究についての WHO 報告公表に関する
オーストラリア放射線防護核安全庁 (ARPANSA) の声明**

ARPANSA は、ある種の脳腫瘍と携帯電話使用に関連があるか否かについての INTERPHONE 国際共同研究からの最初の全体的結果の公表を喜んで受け入れる。

INTERPHONE 研究から近頃公表されたデータを含め、脳腫瘍と携帯電話使用との関連についての現在の理解に基づけば、ARPANSA の見解は以下のものである。

- 現在利用可能なデータからは、成人の携帯電話使用を制限するような一般的勧告は是認されないと結論する。
- 健康影響可能性を懸念する人に対して、通話時間の低減、受信状態が良好な場所での通話、ハンズフリー機器やスピーカーの使用または携帯メールの使用などによって自身のばく露が制限できることがあると知らせることを続ける。
- 携帯電話の子供の使用および長期使用に関してはまだデータがないため、両親は子供に対して、通話時間の低減、受信状態が良好な場所での通話、ハンズフリー機器やスピーカーの使用または携帯メールの使用などによって自身のばく露を制限するようにさせることを奨励する。

背景

ARPANSA は、INTERPHONE 研究結果は携帯電話使用に関連した脳腫瘍リスク上昇を確証していないことを指摘する。

累積通話時間が最も長い人のグループにおいて、携帯電話使用と脳腫瘍（特に神経膠腫）との関連性についての示唆がある。方法論的限界があるため、因果関係についての結論をこれらの観察から導くことはできない。

しかし、累積通話時間が最も長い人のグループにおいて観察されたことに関して、携帯電話使用が若い人および子供で増加していることを指摘する。このことは、このグループの累積通話時間は、本日公表された研究によって調査された成人集団の大半より長くなることを意味する。長期の過重な携帯電話使用の影響可能性については、監視と一層の研究が求められる。

終結的なデータ、特に子供に関して、が得られていない現状において、ARPANSA は、上記のプレコーシヨナリ的対策を提唱する。ARPANSA は、子供が携帯電話を持ち、多くの場面で使用する必要があることを認める。プレコーシヨナリ的対策は頭部に向けた携帯電話使用に関連している。

現在の ARPANSA の基準には、無線周波数電磁界に対する公衆の不必要なばく露を最小にする要望が含まれている。ARPANSA は、オーストラリアの科学者の助力を受けて、INTERPHONE 研究の結果を注意深く吟味してく予定である。最近の 10 年間に公表された大量の科学的研究とともに、INTERPHONE 研究の本日公表された結果は、ARPANSA が無線周波数電磁界に関する現在のばく露基準の再検討の必要性の有無を決定するときに役立つであろう。

(完)